

## 平成28年度 ラトヴィアの旅

平成28年5月29日 ～ 6月9日

### 参加者

湯村正仁 曾根孝悦 森 文男 米倉 滋 一川英機 芳賀嘉幸 前野頼彦  
沼田勝意 小菅 昇 興梠和明 井上一久 菊地原緑 桜庭阿恵 岡本洋子 安田由美子  
乾 喜代子 犬井朋義

### はじめに

今年で7年目となるラトヴィア剣道セミナーに이었습니다。  
参加者は17名、リトアニアで合流した書道の大家竹前先生を加えると18名であった。  
今回はラトヴィアの前にロシアのサンクトペテルブルク、後にリトアニア訪問と合わせて  
3か国をまわった。メンバーの中にはヘルシンキにおいて合流する前にすでにドイツで7  
日間剣道を済ませた方が5人いた。

この時期、全日程とも好天に恵まれ、最高28度までのむしろ日本より暑いぐらいの日が  
続いた。剣道に観光にそしておいしいお酒と食事の旅であった。いつも事細かな日程計画を  
立ててお世話いただく前野頼彦氏には感謝申し上げます。

**5月29日** 14:15鳥取発 スーパー白兔にて関西空港へ。この日はホテル日航関  
西空港泊まり。

**5月30日** 関空発 同行者は3名(湯村、岡本、安田)。荷物受付窓口が混雑し最終乗  
客となる時間間際であった。Finn-Air AY078 10:45 発

予定通り、現地時間 同日 14:55 ヘルシンキ着。ここで、ドイツですでに1週間を過ごし  
た5名(一川、森、米倉、芳賀、菊地原)、現在アルメニアに滞在し彼の国の剣道指導に情  
熱を燃やしている前野氏、中部空港発の井上氏と合流。

**トラブル1。** 成田空港発7名の乗る成田便は、機長の急病のため発機しなかったとのこと。

**トラブル2。** 中部空港発の航空券はこの先の乗り継ぎが発行されていなかった。

17:55 AY169 にてサンクトペテルブルクへ。

空港にはアレクセイ会長、日本語堪能な美人剣士ゾーニア、福岡の角範士の奥様をよく知る  
薙刀の女性3名が出迎えてくれる。



ロシアは1億5000万人の人口を持つ世界最大の国土面積の国である。国土が広く剣道界は各地域に分散していて、サンクトペテルブルクは独立して活動している。。

21:00 ホテル着 **Hotel Moscow** ネヴァ河の畔、すぐ前にアレクサンドロネフスキー修道院がある。サンクトペテルブルク一番の目抜き通ネフスキー大通りの東端に位置する。広い床面積のホテル、部屋は6階。エレベーターを降りて部屋まで約300メートル。1フロア150室くらいか？ 部屋は広い。備品は全くなし。夕食はホテル地下のビアーレストラン。名物のボルシチ etc.食欲全くなし。

### 5月31日 快晴

Am 4:00 起床 すでに明るい。6:00 ホテル周辺を散歩。遠出はやめておく。

Am 7:30 朝食。体育館ぐらいの広さの食堂がいっぱいになるくらいの多数のお客さん。

Am 10:00 出発 11:00 日本国総領事館 訪問。主席領事 大澤暁氏よりサンクトペテルブルクの歴史、モスクワとの比較日本との関係などのレクチャーを受ける。510万人の人口に対し、年間600万人の観光客があること、伝平（1697）、大黒屋光太夫（1800）、高田屋嘉兵衛（1811）、ゴロブニン事件、陽明丸事件等々。



デパートのレストランにて昼食後16:00までバスにて市内観光。ホテルに帰り休憩。

18:00 ホテル発大学の体育館へ

剣道人口は150人とのことだが、約70人が参加。体操、基本、回り稽古、指導稽古。途中、ようやく成田発のメンバーが合流し、メンバーがそろった。

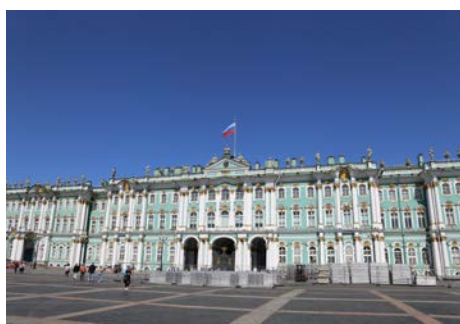
ホテルに帰って夕食。

### 6月1日 快晴

Am 6:00 起床

7:30 朝食

10:00 バスにて出発 エルミターージュ美術館へ



ロマノフ王朝の贅を尽くしてピョートル大帝がロシア近代化の夢を託して作ったサンクトペテルブルクの町並みは当時のヨーロッパ建築の様々な技法を集めたもの（世界遺産）。その最盛期、エカテリーナ 2 世は冬の宮として建てた宮殿に西洋の一流の美術品を集めて美術館とした。どこまでも真っ直ぐな道は 30 分走ってもなお直線。建物は冬の宮殿より低く抑えられ、5 階以下ということである。

昼の小休憩を挟んで 3 時間の鑑賞。専門の日本語ガイド付き。しかし、???

多数の名品・名画に圧倒された。建物の内部も素晴らしい。

Pm 3:00 市内のレストランにて昼食。ホテルへ帰り休憩。

Pm 6:00 ホテル発 昨日と同じ大学へ。

沼田氏は大学で武士道について講演。

Pm7:00~9:00 剣道稽古 レベルに応じて 3 グループに分ける。有段者はは米倉、森。初心者対応は井上、中間を曾根担当とする。

実施項目の説明と実演、生徒実演、注意点の指導、実演、生徒実演、模範生の演武。

この繰り返りでレベルを上げていく。

最後に指導稽古 30 分。

終了後、ホテルへ。レストランにて夕食。

**6 月 2 日** 少し雲が出てきた。移動日。

Am 8:30 出発

FNAIR AY166 にてヘルシンキへ、AY125 にて Riga へ。Pm17:20 着

**トラブル No 3** 10 人分の荷物未着。

空港にはキンズーリス氏出迎え。**Hotel Albatross**

バスでホテルに。ホテルは例年と異なり、空港から比較的近く、ダウガヴァ川の支流上流。

部屋に案内されて驚いた。ダブルベッドの部屋に 2 人宿泊という。改善を申し込み、補助ベッドを入れてもらう。3 階の部屋までエレベーターはなし。ここで 4 泊すぞすことにな

る。

この日、予定されていた大使館訪問は、キンズ氏の申し込み不実施により、なし！  
近くのレストランに出かけて夕食。タクシーで帰る。

### 6月3日 ラトヴィア剣道セミナー 1日目

名簿から、参加者 45 人。 年々減少の傾向。(Lat 15,Lith 9,Rus 9,Est 4,Bel 4,Spein  
1,Mor 1,UK 1,Jap 1)。

Am 10:00 開始 以下の指導体制を組む

A組 2～5段 12名 森・米倉・芳賀・小菅

B組 初段～2級 9名 曾根・一川・菊地原・乾

C組 3級以下 13名 井上・前野・興梠・岡本・安田

剣道形

基本打ち、技

稽古

ただし、半数は剣道具未着のため十分な指導できなかった。

### 代表者の大使館訪問

午後 訪問団を代表して湯村、一川、前野が大使館を訪問した。

大使は不在、坂口尚隆参事官対応。毎年のことながら、本セミナーに対する支援を求め  
る。

p m 5 : 3 0 ホテル帰着

レストランで夕食。

指導陣と本日の反省点を話し合う。

基本打ちでは空間打ちを避けて対人動作とするよう要望する。

小手先の技の指導はいかがなものか？

剣道形の指導では、指導者の個性が目立つ。

いつもならこれから賑やかになる午後 10 時、今日は静かである。後にわかったことだ  
が年寄り置き去りにして、リガの夜の巷に出かけたとの事。

### 6月4日 快晴ただし風が出てきて涼しくなった。

剣道セミナー2日目

「YUMURA CUP」 am 9:30 開会式

3分、3本勝負、Man, Woman, Junior, Kids の4部門、2試合場使用

結果

Man 1位 Arsenin Denis(LAT) 2位 Galdins Janis(LAT)

Woman 1位 Sato Ami(EST)

2位 Loputeva Elina(LAT)



決勝戦終了後

日本剣道形 米倉一曾根

二天一流 解説：一川 芳賀一菊地原

Arsenin は LAT の実力者。LITH の実力者との準決勝が白熱の好試合。Janis は 1 級である。今回の活躍には驚いた。Fighting Spirit 賞。

Sato Ami は日本人。3 段。実力違い。

ハプニング

1 ラトヴィアスポーツ省長官 E i n a s Fogelis 氏 来場



決勝戦男女、剣道形を見学

- 2 坂口参事官来場 所用ありとお土産をおいて見学することもなく帰ってしまった。
- 3 会場外駐車場にて 過飲酒の老人が倒れている。起き上がれず。一人の若者が傍にいます。いわく、自分の父だと。家は近くということで入口まで二人で担ぎ込んだ。本当に息子なのか？後になって心配になってきた。
- 4 山形大学 大崎直太教授 (Latvia 大学との交換留学生の調査に来て、リガ滞在中) 竹刀の音を聞いて竹田隆一先生が来ているのかと覗いてみたとのこと。この後ご夫人とともに寿司パーティーまで参加。

今回のセミナーの参加者に、剣道初心者であるが、ラトヴィア大学医学部の学生がいて日本への留学を希望していた。早速キンズーリス氏を通じて仲介の労をとることができたことは幸いであった。

5 EST Juristro 6段がはるばるやってきた。

午後のセミナー

女性は寿司パーティーの準備

昨日の続き。剣道形 終わったところは木刀による剣道基本技。

A組は希望により、上段対策、二刀対策。

pm 5 : 00 終了

校舎内で寿司パーティー 狭い教室とその前の廊下使用。

今回はカレーライス、餃子が新メニューとして登場。

参加者和気藹々のうちに時間も経過し終わりそうもない会を終了として、全員で後片付けをし、ホテルに帰る。

**6月5日 曇**

剣道セミナー 3日目

前回までは3日目になると参加者の多くが帰り、半減していた。今回は全員残留し、3日目のセミナーを開始。

内容は昨日の続き。

二刀の練習では、竹刀の小刀の代わりに木刀の小太刀を使うなど、工夫を凝らしていた。

本日もスポーツ省長官 Fogelis 氏が熱心に見学していた。

午後は指導稽古の時間を多くとり、日本の指導者同士の稽古もあった。

昼休憩中、茶道、書道の時間をとった。多くの参加者が参加し、日本指導者が手取り指導していた。

最後にこのセミナーの開催に多大なご協力をいただいた。キンズーリス氏に感謝の言葉を述べ、来年さらに盛大な会になることを祈り、全員で集合写真を撮り閉会した。



ホテルに帰りシャワーでさっぱりした後、ホテルのレストランで打ち上げをして終了した。

## 6月6日 晴 移動日

Am5:00 起床

6:20 ホテル発

7:00 リーガ発 ヴィリニウス行路線バスに乗る。朝食はバスの中でいただく。

12:00 ヴィリニウス着 **City Hotel Rudininkai**

リトアニアには昨年リーガに入る前に来ている。ヴィリニウス市内の観光はこの時済ませているので今回の宿泊ホテルの地理が大体わかる。観光地である旧市街の一角である。小さいが快適なホテル。

早速近くのレストランに出かけ、昼食。

**Nykolo Romeric University** 訪問。新しい大学のような。ホールにおいて講演。

さて、この講演。半年前から前野氏に依頼されていた英語による講演である。「日本の肚」について山岡鉄舟を例にとり、「肚」とは何かを話そうと考えて、原稿を作ってきた。スライドは使えないと思っていたので大判の写真を作ってもらい、持参したのである。しかし、思うように英文は出てこない。約30人の聴衆が理解できたとは思えない内容となってしまった。失敗の巻！



続いて一川先生は二天一流について芳賀一菊地原氏の実演により見事な講演内容

であった。さすがに慣れておられる。

終了後、一度ホテルに帰り、pm6:30 徒歩で日本大使館へ出かける。ここで書道の大家竹前先生と合流。

在リトアニア日本大使館の特命全権大使 重枝豊英氏は剣道 3 段。今回のメンバーの中にはドイツにおいて大使の自宅に宿泊し、ご夫人の手料理を味わった人もいた。大使館を上げた美酒・美食のおもてなしを受けた。リトアニア剣道連盟の主なメンバーも参加していた。Pm9:00 ホテル帰着





## 6月7日

昨日の講演について大使館員から内容をもっと簡単にするよう求められた。帰ってから内容の再構成にとりかかった。朝の光が差し込む頃、ようやく英文に仕上げた。寸時の眠りをむさぼり、am8:30 ホテル発。

1,5時間バスに揺られて Kaunas 着。ここはナチに追われる多くのユダヤ人にパスポートを発行し命を救った、杉原千畝が滞在した当時のリトアニア領事官の所在地である。今も杉原記念館として建物が残されている。

10:00 記念館着。今回、ここで竹前先生の個展ならびに講演会が開かれているのである。訪問帳にサインし、建物維持費として 50€ 寄付。



カウナス城壁近くのレストランで昼食。

**Vytauto Didziojo University** 訪問。ここでも昨日と同様な講演を依頼されている。一夜漬の講演はやはりうまくいかなかった。反省！今回は岡本一安田の基本実演でごまかした。カウナスには剣道専門学校がるといふ。よく聞くと子供に剣道教えている道場があるということらしい。その先生がカウナスを案内してくれた。帰路、カウナス市内を案内。街路は 1600 年のままとのこと。ハニービール自家製造を味わう。

p m 6 : 0 0 ホテル帰着。直ちに着かえてヴィリニユス大学体育館へ。

約 50 人の剣士が集まっている。希望された初心者指導は井上氏にお願いして、約 1 時間の稽古をこなした。

この時驚きがあった。なんと、重枝大使が剣道具をつけて前に立っておられるのだ。3 段ということだが、若いころの剣道をそのままに思い切りのよい剣道である。昇段試験など関係なく機会を求めて竹刀を振っておられることが推測される。これこそ本当の剣道であろう。



終わってホテルに帰った。帰り道遠く黒煙が上がっていた。ホテルの方向である。バスは次第に煙へ近づいていく。なんと火のもとにはホテルのすぐそばの大きな教会の裏から出ているのだった。しかし、人々は全く無関心のように歩いているのには驚いた。石でできた建物の火災はそういうものかと思った。

タクシーに分乗してネリス川の畔にあるレストランに行った。重枝大使、リトアニアの剣友たちが集まり、大きなホールは満杯である。重枝大使よりロシア大使譲りのウオッカをいただいた。この度の旅の行程にはロシアが入っており、本場のウオッカが飲めると期待していたが、今まで全くその機会がなかった。ここに来てようやく味わうことができた。さすがにいい酒なのだろう。今まで飲んだウオッカの辛さは全く感じられない。全員に回したがボトルは 1/3 も空いていない。ついに日本まで持ち帰ったのである。

## 6月8日 晴

Am9:00 タクシーに分乗して空港へ

Am11:45 AY132 でヘルシンキへ。成田行きと関空行きに分かれ、我々はAY077にて関空に帰る。

**6月9日** 定刻通り am8:55 関空着。Pm6:00 鳥取に帰着、波乱に富んだ今回の旅は終わった。

## おわりに

いろいろハプニング、トラブルに遭遇した旅であった。終わりよければ全てよしというが、十大事に至らないものばかりであったことは幸いである。

さて、リーグでの剣道セミナーは7回目となる。参加者が増加してくることを願っているのだが、今回はむしろ減少している。内容がよくないのか？反省するところである。毎回指導の中心となっただく8段の参加者、そして初心者の指導を担当していただく井上氏には深く感謝している。

今まで訪問国は2か国であった。今回は3か国となり日程が大きくなった。そのことは参加者の減少の原因とはなっていないと思う。今年はポーランドの参加者の顔が見えなかったが、減少の原因は当地ラトヴィアの参加者の減少によると考える。ラトヴィア内で会員の解離があるのではないか。昨年の世界大会初参加を果たしたこの国にとって励みになっていたと思うのだが、どこかに無理があったと考えられる。キンズーリス氏一人に頼る基盤のもろさがあるようだ。大使館の応援があればありがたいと思う。昇段審査を実施することにキンズーリス氏がこだわる理由がそこにありそうだ。我々は資金援助はできない。できることは技術指導のみである。日本の剣道人が住み着いて指導できれば一番よいのだが！